

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 漢字の筆順アプリを使用した漢字の書きの指導 (個別指導)
授業について	教科名等	■国語 □社会 □算数/数学 □理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術・家庭 □体育/保健体育 □特別の教科 道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他()
	単元・題材名	既習漢字の習得
	授業の目標	①漢字の正しい形と書き順を身につける。 ②読みから漢字を再生できる。
	学力の3要素	■「知識及び技能」 □「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	□通常の学級 □通級による指導 □特別支援学級 □特別支援学校 ■その他(個別の取り出し指導) □就学前 ■小学生 □中学生 □高校生以降 □特定されない (3)年(1)人、(6)年(1)人
	対象の障害	□視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 □言語障害 □自閉症 □情緒障害 □LD(学習障害) □ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他
	子供の困難さ	■見ること □聞くこと □話すこと ■読むこと ■書くこと □動くこと □コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること □落ち着くこと・集中すること □概念(時間、大きさ等)を理解すること □学習(計算、推論等)すること □その他 ・漢字の書きにつまずきがみられる。 ・その背景に、形・空間の認知や目と手の協応に弱さがあると推測される。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(□B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 □C2認知発達支援 □C3社会生活支援) D実態把握支援(□D1実態把握支援) ○手書きで簡単に漢字を検索することができ、部首、読み、熟語などを調べることができる。 ○筆順のガイドに沿って1画ずつ指でなぞることで、漢字の正しい形と筆順を練習することができる。 ○鉛筆で書くことに苦手さやぎこちなさがある児童でも、指でなぞることには抵抗感が少なく、スムーズに動かしやすい。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	常用漢字筆順辞典 (NOWPRODUCTION CO.,LTD) iOS App © 2019 NOWPRODUCTION ※右の画像は下記HPより転用 https://itunes.apple.com/jp/app/常用漢字筆順辞典-広告付き/id453410542?l=en&platform=ipad 
授業展開	授業展開・支援の手立て	取り出しの個別指導の時間内に1回約10分実施した。回数は児童により異なるが、いずれの児童も複数回行った。その日の個別指導で扱った漢字について、筆順のガイドに沿って1画ずつ指でなぞり、漢字の形や筆順を何度か練習した。また、指導中に、読めない漢字や書けない漢字がある場合には、漢字辞典として使用した。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・指導の効果を確認するため、その日の指導の最初と最後に、漢字の書きテストを行った。また、定着度を確認するため、次の指導日にもテストを行った。その結果、両名ともに、最初に書けなかった漢字が、同日最後に実施したテストでは正しい形で書けるようになったものが多くあった。日にちを空けて行ったテストにおいても、正しい形で書けた漢字が複数あった。一方、書き順については、誤りが多くみられ、定着の難しさが窺えた。 ・授業の最後の確認テストで書けなかった漢字は、自らアプリで何度も練習していた。 ・わからない漢字があると、自ら進んでアプリで検索するようになった。 ・アプリの使用を重ねていく中で、字を整えて書こうとしたり、細部の違いを意識する様子が見られるようになった。